

【B分科会】

主体的・対話的で深い学びを支援する学校図書館

《B-小 発表1》

「本に親しみ主体的に調べ学ぶ児童の育成」 ～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～

広島県 北広島町立八重東小学校

1 はじめに

本校は、児童数116人、学級数8（特支学級＜2＞を含む）の中山間地の小規模校である。学校図書館教育の充実を通じた「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして研究実践を行ってきた。具体的な取組として、令和元年11月に広島県が示した「広島県子供の読書活動推進計画（第四次）」をもとに、「本に親しむ」「目的に応じて読む」「本から学び自らの考えを深める」という3つの柱と、それらを支える「環境の整備」を中心に図書館教育の推進を行っている。

研究主題は、「本に親しみ 主体的に調べ 学ぶ 児童の育成～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～」と設定し、図書館の3つの機能（読書・学習・情報センター）を活用した授業づくりを行っている。さらに今年度からは、3つの問い（教科等における本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問い）に着目した授業づくりについても研究実践を進めている。

2 研究の概要

（1）八重東型授業モデルに基づく主体的な学び

- ・導入の工夫、小集団学習、まとめと振り返りの充実
- ・授業モデルの提示、話し合いモデルの提示
- ・本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問いの設定による授業改善

（2）「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を生かした授業づくり

- ・図書館機能（学習・情報センター）を活用した単元構成・授業づくりの工夫
- ・情報収集・活用・分類、学びを深める話し合い方等、児童の学習スキルを高める工夫
- ・国語科の授業における並行読書の取組
- ・図書館が「読書センター」・「学習・情報センター」としての機能するための環境整備

（3）読書活動の充実に向けた工夫

- ・地域ボランティア・児童（児童会委員会活動・係活動等）による多様な読み聞かせ
- ・八重東小学校読書百選の選定と目標達成の取組
- ・年間を通じた読書貯金カードの取組
- ・児童会図書委員会による読書推進の工夫（図書の貸し出し、図書環境の整備等）

3 成果と課題

- ・児童アンケートでは、「本を読むことが好き(97.3%)」「本を読むことは大切だと思う(97.3%)」という結果が出ており、研究実践をして学校の図書室を利用する児童が増加している。図書を活用して学習することを充実させることで、図書室は「学ぶ場所」「情報を得る場所」という意識を高めることができている。
- ・図書を活用した主体的な学びについては、「授業に関係ある資料を進んで使うことができた(85.8%)」「授業では課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしている(71.7%)」というアンケート結果が出ており、授業内容に関係のある本を進んで選んで読書し授業での学びに生かそうとする姿が多く見られるようになってきている。
- ・全体的に読書活動は充実してきているが、読書の習慣化・質に個人差があることが課題として挙げられる。図書を活用した学びについては児童の意識に高まりがみられるが、目的に応じて図書を取捨選択したり、資料を比較・分類して自分の考えをしっかりと持ち課題解決をしたりする力を付けることについては、今後も継続した粘り強い取組をしていく必要がある。